自由記載回答全文

Q5. 今後、今回のように不可抗力で演劇活動が影響を受けた場合の支援について、ご意見があればお聞かせください。（公開にあたって内容確認が必要な場合は、その旨、ご連絡下さい）

公開 OK な方

世界規模でありながら個々の体に影響の危機の可能性があるのであればどのような支援でもありがたいと思っています。

金銭的な支援は嬉しい

事態の収束後、地域がある程度の公演費用の負担などで運営の支援をしてくれるとありがたいです。

行政、民間からの支援

それぞれの団体や個人、さらにプロとアマでは状況が違うと思うが、公の会場（ホール）を使う以上、最低でも会場費の返金や保証はしていただきたい。

保険を発足する、小人数ならば貸し出せる屋内施設などの情報発信

出演者として収入が絶たれたのも、自分が主催の場合支払いで赤字になったこともかなりの痛手です。自粛を求めるなら、補償はセットで、しかも素早い対応をお願いしたいです。

演劇祭のような支援をしていただけるとありがたいです。（仕込みから本番まで会場を無料で使わせていただける、公の施設にチラシやポスターを配布し宣伝の協力をしていただけるなど）

個人的には、ウィルスはしょうがないと思います。ただ、生業としている方に対しては、他業種と同じく金銭的な支援が必要だと思います。

上記要望の支援

金銭面での補償や支援

行政は、該当団体からの要請・要望があった場合、公演を中止または延期する際にかかる、

会場及び稽古場のキャンセル料の一部(公的施設であれば全額)負担をしてもらえると、大変ありがたい。

今回の様な感染病や震災等に襲われた時にはエンターテイメントは非常に無力です。
私たちアマチュアは行政等の金銭的な助力は少いかと存じます、災害等落ち着いた際には演劇祭等、表現をする場所を提供していただければと思います。

ギャラの補填、固定費の補填

不可抗力に関わらず、創作活動への理解と援助を常に求めたい。

コロナ終息後の文化事業への支援・協力の強化

地震などのように場所が復旧すれば（もしくは代替の場所があれば）人が集まれるケースと違い、今回は人が集まること自体が感染原因になるため、公演やライブなどを問題なく開催できるまでかなり時間がかかると予想される。そのため専門職として舞台・公演に関わる人への休業補償や、短期・長期の就業支援（本職に戻れるまでの期間の収入支援）も必要と思う。また、名指しで休業要請を出されるライブハウスなどへは、ある程度優先的に速やかな補償があってもいいと思う。

再開したら稽古や公演がスムーズにできるよう配慮してほしい

「自粛要請」を求められながら十分な支援がない現在の状況では、舞台芸術に関わる人が活動を続けることは難しく、結果、文化そのものが痩せ衰えてしまう。行政は、経済活動と同じレベルで、舞台芸術を守るための支援を積極的にしてほしい。

公開にあたり確認が必要な方
（公開 OK）活動内容の紹介の場が欲しいです。

公開

（公開 OK）特に演者の場合、県内演劇人は、ほとんど別に生業をもっていますが、なかにはいち公演あたり千人前後のお客様を集める団体は、300 万前後の予算で、半年から数年前から準備、直前に中止・延期となった場合、すでに半分くらいの経費は支払っているケースがほとんどです。今回はたまたまこの時期の公演が無かった団体も、今後、また同じ状況になる可能性はあります。その場合も、なかなか中止・延期となった公演分の補てんはむずかしいと思いますが、その後も活動が継続できるような、支援があると助かります。

（公開 OK）また、群馬県内の場合、裏方スタッフはフリーランスの割合が高くなっています。県内でフリーランスで動く場合は、公演全体の数は少ないので、逆に能力が高くないとフリーの技術スタッフにはなれません。その人たちは、現状、別のアルバイトで生計を立てざるを得なくなっています。そんな彼ら彼女らがいてくれないと、公演の中止・延期にあたっては、生業としている裏方スタッフへの補償は、あればと希望します。

（公開 OK）本来であれば劇場が劇団を組織あるいはフランチャイズし、雇用するという文化やシステムが根付くといい。日本では劇場法が出来たばかりでまだそこに追い付いていない。

未回答の方

（公開OK）演劇に対して支援が少ないのは、国民による認知の低さにも問題があるため、重要視されていないのだと思います。ドイツのように、政府の人間が、マスメディアで芸術は途絶えさせてはいけないと訴え、商業演劇だけでなく、あらゆる演劇活動を世間一般に普及させることが大切だと思います。いわば、政府による演劇の宣伝です。広く国民全員の意識が強くなければ、それだけ政府は無視できなくなります。演劇は演劇界隈の人間だけが理解できればいいというような風潮が演劇界には残っている気がします。地域の人が、ここで公演されることを知っていますか、地域に劇団があることを知っていますかと問えば、その答えはごく少数です。これだけ演劇がされている東京でも、演劇のイメージは大きな商業演劇だけです。社会に必要だと、途絶えさせてはいけないと訴えるのならば、こちらから手を伸ばして、重要性必要性を訴え、市民権を得ることも重要なのではないでしょうか。

Q6.今回の事態が収束した後に向けて準備したり考えたりしていることがあればお聞かせください。（公開にあたって内容確認が必要な場合は、その旨、ご連絡下さい）

公開 OK な方
まずは収束するのかどうかがわからない状態なので、その後の考えは未定です。

今まで通りの公演を行う

来年または来年以降に公演予定、そのための台本作り

長いスパンで、やりたいことを淘汰して、次回公演の準備を進めています。

次回の活動の為に、家で個人練習しています。

現在は、枝葉である Web での配信やレッスンを続けていますが、やはり舞台でのお客様とのリアルなコミュニケーションが私達の根っこです。今度どうやってリアルなコミュニケーションを継続していくのか日々悩んでいます。今回の事態は長期戦になることを予想しています。収束後も、お客様とお客様の距離を開けて座っていただくなど、集客等、苦戦することになると思います。これまでスポンサーになってくださった企業も経済的な打撃を受けており、今まで通りやれるのかとても心配です。

いつ収束するか先が見えない状況ではありますが、落ち着いたらなるべく早めに公演ができるよう、オンラインで台本読みや打ち合わせを行い、準備を進めています。

演劇祭、映像祭、音楽祭、総合文化祭

通常時と同様のライブ活動

人が集まらなくてもできる準備をしていく。

心身ともに健康でいること。
必要以上に考えないこと。
不要・不急な行動をしないこと。

群馬県の「初めての文化体験事業」を通し、子供たちに生の演劇に触れてもらう幼稚園保育園などへのショートミュージカルの訪問公演をしていますが、積極的に行っていきたいです。

今年度の劇場公演は中止になってしまったので、来年度の公演に向けて、基礎稽古や公演

の準備をしたい。

収束したなら通常の活動に戻る。現在は出張公演用の道具、人形など修理リメイク中。

当方、舞台スタッフは主催者・出演者・公演開催があって実働できる部門であり、その根本が

現況、だんでらいおんは春公演の無期限延期と夏公演の練習自粛またはまだ、発表はしておりませんが、延期または中止を視野に入れております。

まずは春及び夏の公演を何らかの形で上演が出来る様、稽古場の確保、稽古のスケジュールの見直し

ストレイトプレイだけでなく、劇団のスタイルを変える様な変化を模索しております。

転んでもただでは起きぬ

今回のことを受けての、心のあり方、社会との関わり方などをテーマに創作活動をしたい。

来年のオリンピックに向けてこの閉塞感を打破すべく、イベントを欲求する気運が高まると思います。
ライブ、芝居、パフォーマンス、フリマ、セミナー。垣根を超えた大規模な開催が目白押しと予想します。
自分は何で対応するか、その焦点の絞りが準備かと考えます。

収束したら上演する予定の作品に出演する

お客様が演劇に何を求めているかを再考し、演劇に持っている力を劇団単体ではなく多くの仲間たちと連携して、様々なアプローチで演劇文化が届けていきたい。

とりあえずオンラインでの稽古をしていくしかないと思う。また、この機会に、色んな演劇の映像を見たり台本読んだりすればいいと思う。

延期をしている公演も中止をすることになりそうだと、予想しているので、コロナウイルス感染が落ち着いてきたらリベンジ公演を計画しています。
時期については、まだ未定ですが、すみやかに開催出来るような準備をしています。

公開にあたり確認が必要な方

（公開 OK）新入生歓迎期間の活動を開始するつもりです。

（公開 OK）会場の手配、交渉、宣伝等スピードをもって動き出せるよう確認。ＳＮＳにて近況報告。

公開 NG の方

（公開 OK）自粛の緩和がはじまった場合、ソーシャルディスタンスを守って、スペース内の換気・消毒に心がけることで、演者 3 人まで、観客 5 人まで等の野外や小さな演目からの再開となるのではないかと予測しています（はずれたらごめんなさい）。その時、なにができるかを考えています。そこまでの再開はできても、しばらくはそこまでが限界の可能性があるかな、とも思っています。

未回答の方

（公開 OK）ワークショップ、ショー

（公開 OK）時期はまだ発表になってないので公表できませんが、東京ビエンナーレ 2020、ソーシャルダイブに参加いたしますので、去年より準備してます。

Q7. 今、感じたり、思うことで、伝えたいことがあれば、お聞かせください。
公開 OK な方
バレエやスポーツなど広い場所が無ければちゃんとしたレッスンが出来ない物にはやはり
場所と練習をさせて欲しい　もちろん最善を尽くした注意を約束した元にでありますが
今の状態は　ダンサー達には地獄です。

早く収束を祈るばかりです。

私自身が生活に困ってる状況ではないが、今、身を削る思いで過ごしている芸術関係の方がいたら助けとなりたい。

演劇、映画、舞台…みんなだめの中で、どれくらい我慢してればいいのだろう。観る側としてはかなりきつくなってきた。する側としては、私(たち)は丁度公演準備段階なので大きな損失もショックもほとんどなく過ごせているけれど、公演や舞台が取りやめになった皆さんはどう暮らしているのだろう。それがとても心配です。

個人的には 3 月から収入が約 90%ダウンしてます。この状況はまだまだ続くでしょう。政府がもっと早く手を打っていれば（他の国に参考になる事例はたくさんある)、長期化せずに済んだと思います。
文化を成熟させるためには、植物と同じでとても時間と手間をかけないと綺麗な花は咲きません。逆に文化を潰すのは簡単で、水をやらなければすぐに朽ち果てます。
これは新型コロナに限ったことではありませんが、この国は人間が人間らしく生きていくために必要なこの「文化」を大切にしているとは、今は到底思えません。

文化人がみんなで知恵を出し合うのも重要ですが、それを行うためにも経済的な支援は必要だと思います。

芸術は往々にして、特に日本では、生きる為には必要ないと思われがちです。確かに空腹を満たすことは出来ませんが、今のような辛い現実の中において、芸術は、諦めずに明日に向かって生きる勇気を間違いなく与えてくれるものだと思います。欧米諸国のように、日本でももっと芸術が大事にされるべきです。

本来ならエンターテイメントは、こんな時こそ活気づいて、パワーを与えるもの。しかし、ウイルスの拡散防止のため活動はできない。表現する手段がわからない。苦しい、悔しい！

文化振興課の人たちも大変だと思います。文化振興課の事業の予算は毎年ガンガン減らされてます。
この肺炎騒ぎ以前から、いかに行政が芸術文化に関心を持ってくれていないかわかりますよね。ほんと卑屈になっちゃう。
とはいえ県職の方そうとう疲弊されてると思いますので、お手柔らかにお願いしたいと思います。わたし個人のことを言えば、所詮趣味ですので。

このような事態になると一番に削られるのが娯楽や芸術ですが、今、自宅待機になっている人たちの心の支えも娯楽です。多くの方々の心の潤いになる娯楽・芸術への応援を今こそお願いしたいです。

オンラインでできることが増えている世の中ですが、生で観て感じる演劇文化は廃れないでほしいと強く感じます。私たちも公演実現のため精一杯努力しますが、個人の力だけではどうにもならないこともあります。演劇文化の継続・発展のためにサポート頂けたなら幸いです。

プロの方に対しては、他業種と遜色ない支援を。表現者としては、今の制約を楽しんで、家で、オンラインでできる新しい表現を産み出していければと思います

11 月に公演が決まっていて会場代も支払っているため、早く練習ができるような環境に戻ることを願います。

自分の立場は、普段から原則的にギャランティの要求はしていますが、同時に音楽以外からの収入で生計を立てているのが現状です。

よって音楽を専業とはしていない分、固定費や支出の面では少なく済んでいるので、今回の件で金銭的な損害は小さく済んでます。

音楽なり演劇なりの活動を専業とするか兼業とするかは、根底に本人の意思もあるとは思いますが、実際には人との縁や運とか成り行きなどもあって、最初から最後まで自分の思う通りに歩んでいる人もいれば、結果的に今の立ち位置に落ち着いた人もいると思います。

そうした色んな状況や境遇の演劇人や音楽家がいる中で、別の食い扶持を犠牲にしてまで大衆や観客、ファンの為に身を捧げている専業の方については、殊更国や自治体の保護を強く願っております。

前代未聞の新型ウイルスの感染ということで、自粛は仕方ないと思っているが、文化や芸術、スポーツなどが正常に楽しめる日が早くきてほしい。そのために、今はがまんか。

「今、本当に動くべきこと」なのかを吟味して行動してほしい。
収束の見通しが立ってからの行動で済むことならば、その方が社会全体として良いこともある。
「何かしなきゃ」という想いを発信するだけで、誰かの呼び水になり、不要・不急な行動のきっかけになりかねない、ということを自覚してほしい。

劇団に所属する大人は連絡手段がありますが、キッズは保護者を介しての連絡で本人がどのような状況か分かりません。この長い間稽古ができないのは、劇団結成以来 19 年間無かったので、キッズの健康状態や個人練習も気がかりですが、大人も含め、家族同然のメンバーにとにかく早く会いたいです。

毎週会えていた仲間に会えないのは、つらく寂しい。

私は、現在、「藤岡リジャイナかけ橋プロジェクト」という活動に関わっています。
カナダのリジャイナ市と、絵本を通じての文化交流を目的に設立した団体です。
寄付された外国の絵本 100 冊を使って、これから読み聞かせなどのイベントを企画していた矢先の出来事でした。
学校という学びの場が奪われた子どもたちに、何かを届けたいとメンバーで話し合いましたが、まだこれという案は出されていません。
今は、この事態が終息した後にすぐ動けるよう、準備をしています。
まだ、始まったばかりの活動ですが、日頃からネットワークを構築していくことの重要さを実感し、今後は少しでも活動の幅が広がるよう、多方面に働きかけをしていきたいと考

えています。
この活動に関わらず、いろいろなところで
「こんな時だからこそ、出来ることがあるのでは」
という声を、多数聞きました。
まだ、流行がそれほど広まっていない頃、アーツ前橋のサポーターの仲間たちと map でグループ展を行いました。
人が表現したい、という気持ちは、誰も止める事はできないと思います。
何かアクションを行う時には、お手伝いしたいと思います。
どうぞお声かけください！

当方、舞台スタッフは主催者・出演者・公演開催があって実働できる部門であり、公演がないということは我々の主とする業務が発生しないということになります。
従って、収束すればの前提ですが、何を以って公演再開へのきっかけとなるのか、今は静観する以外にありません。

今のこの状況はどうすることも出来ない事だと思います。
ただこの状況が新しい演劇の活動を見いだしていることも事実です。
プロもアマチュアもエンターテイメントの火を消すことなく、
今は自分も含め非常に落ち込んでおりますが、
活動を再開出来るようになった際には、たくさん盛り上げて行ける様に勉強をしていきたいですね。

日本人は歴史から学んでいない。

俳優も、培ってきた技術で食うことが出来なければ、それを放棄して別の職業に就くしかない。他の職業と同様に、それは大いなる損失であると言いたい。

状況は理解しているが、公演が予定通り開催出来ないのは本当に悔しいです。

今はよく休むこと。

オンライン稽古を導入していますが、声は思うように出せません。芸術は人々に生きる勇気を与えるものだと思います。なんらかの形で、舞台活動ができないものかと、やるせない気持ちです。

オンラインでの稽古しかできない状況なので、今までのように会いたい時に会って稽古をしてとやってきたのは当たり前ではないんだなと感じています。稽古できる施設は、ガイドラインを設けるなどして早く使えるようになってほしいと思う反面、万が一のことが起きた時に誰が責任を取るのか、という問題が発生するのも否めないと思います。

準備を怠らず、次に訪れる機会に対応できるように意識を集中させる。

コロナが収束した後の社会でも、Youtube や Zoom をはじめオンラインでの表現活動が活発になってくると思われるが、それをリアルな場に繋げていく方法も同時に考えていかなければいけないし、逆にホールやライブハウスなどもオンラインと繋がる準備を整えておく必要があると思う。

皆さん苦しい思いをしていると思います。やりたかったメンバーで、やりたかった日程で公演をすることができなくなった辛さは計り知れません。
東京などとは違って生活はかかってないけど、群馬県には沢山アマチュア劇団があり、みんな悲しんでいると思います。それでもオンラインを活用して稽古したり活動したりしています。それを見て思うのは群馬の演劇はコロナになんか負けない！！(精神的には参ってるから、精神的なサポートは必要かもしれませんが)またいつの日か、みんなで演劇ができる日を楽しみに、お互いの公演を観に行くことができるように、つらいけど耐えていきたいなって思います。

一個人としては、私は演劇活動で収入を得ていないので、経済面で生活に支障はありません。
客演させていただいてる劇団には、公演延期になったものもありました。
もし、公演が延期になった場合には、会場代の払い戻し等がないと、劇団の予算は厳しくなってしまうと思います。
（今回、会場代の払い戻しはあったかと思われますが、確認はとっていません。すみません）
通常、私たちがお芝居活動をしていく上で、劇団や劇場という場は大きな役割を果たしています。
こう言った災害の中でも、そういった場を存続していけるようであってほしいと願っています。

今まで生きてきたなかで、自分たちの活動する場所を失ったり、集まることを制限されたりすることがなかったので、今回の事を受け止めて、これからの活動のやり方や公演の取り組み方を考えなおして、活動していこうと思っています。

舞台制作、照明さんや音響さんなど大変な打撃を受けてると思います。そちらの方々への支援もぜひともお願いしたいです。

SNS 等では「こんな時に演劇なんて必要ない」という意見も見聞きする。しかし、演劇など舞台芸術は、こんな時にこそ必要なのだと改めて感じている。

私たちは今、新型コロナウイルスにより演劇活動が制限されるという想像もしなかった事態に直面し、目の前のことで精一杯だ。が、視点を未来にも向け、多くの人の心を豊かにする舞台芸術が 100 年後、200 年後も存続しているよう、今何ができるかについても考えていく必要があると思う。

個人的意見ですが、コロナウイルスの収束はせず、インフルエンザウイルスのように、今後、毎年流行していくであろうものだと思っています。
100 パーセントの補償を早急に行っていただくか、早く仕事の再開をすべきだと考えています。日本全てが潰れてしまう前に。子どもたちの時間も止まってしまったまま…本当に守るべき物は何なのか？見失ってしまっ

公開にあたり確認が必要な方

（公開 OK）大切なものに改めて気づく機会となりました。演劇活動や芸能文化活動は人とのめぐり逢いをもたらし、より広い世界を感じることで、成長の上で心の糧となり、人生の支えともなり、人生の楽しみを増し、考えを深め、人間を豊かにすると思います。青少年にこのような機会が失われる事無く、再びその機会がやってくることを願い、今はみんなで自粛に協力し合いましょう。

公開 NG の方

（公開 OK）コロナウイルスの正体がなかなか明らかにならない中では、必要な自粛と、やりすぎの自粛があるように思います。３密を避ける、といっても、家族は３密の宝庫ですし、生活必需品を扱う関係各所も「密」のオンパレード。そんな中にあって、劇場や舞台表現系の動きは、はやくから自粛をしています。実質三月いっぱいは、ギリギリ公演しているところもありましたが、今のところ、映画館や劇場関係から感染者は出ていません。あまり医学的な知識はありませんが、わかり得るエヴィデンスを元にした場合、自粛の緩和があってもいいようなものにも、社会の監視体制のようなものが強化されていて、不気味な印象をもっています。

（公開 OK）本来であれば劇場が劇団を組織あるいはフランチャイズし、雇用するという文化やシステムが根付くといい。日本では劇場法が出来たばかりでまだそこに追い付いていない。実演芸術と社会の関係を構築していくには時間がかかるが、翻ってみれば日本は非職業的実演芸術家の多い国でもあるので、そうした特徴からの独自の文化保護の在り方を目指していくのは大切だろう。日本におけるアーツマネジメントはまだ緒に就いたばか

りなので。

未回答の方

（公開 OK）⭐フリーランスの仕事だと急なキャンセルの場合
％保証がないので今後は内容改定が必要だと思う。
⭐県や市でもコロナ終息まで期間だけでも雇用ができる仕組みを早急に考えてもらいたい。
収入がない事が１番不安である。

（公開 OK）今だからこそ学んだり交流出来たり出来る事もあると思うので、なるべくオープンに関わり合い情報を共有しつつ、再び動き出す時には良い意味で今までとはまた違った形で出来たらいいと思います。個人的にはそのための時間にしていきたいです。なのでコロナが理由で途絶えてしまう活動があるとしたらとても残念な事であり、現実的にサ

ポートが必要とされる場所には、然るべき支援が行われるべきだと思います。いざ収束してみたら周りはすっかり焼け野原だった。という事がない事を心から願っています。

（公開 OK）芸術分野に対して、未来の子どもたちのためにも、国から、または県や市などから、誠意ある支援を願うばかりです。

（公開 OK）都内で活動している友人たちの公演も軒並み中止。テーマパーク系の子たちも生活できないレベルとの話をよく聞きます。
今回の件でやはり演劇などの芸術文化が「不要不急」の「娯楽」としての認識であることが身にしみて分かりました。
プロアマ共にもっともっと国内や県内での文化芸術としての立ち位置の向上を図っていく必要があり、それが確立されていけばいくほど、今後もし同じようなことが起きた際の負担は減っていくのではないかと思いました。こういった観点からも私はまだ自分の団体以外に群馬県の演劇に携わる皆様との交流がほとんどありませんが、もっともっと交流を深めていけたらとも思いました。

（公開 OK）団体としては表現全般を扱っていますが、個人としては詩作と詩の朗読を主に行っています。詩は演劇と違って身軽なので、SNS で詩を投稿したり、連詩（複数人で一つの詩を作る）をしたり、オンラインの詩朗読イベントが沢山実施されるようになったり、コロナ禍によりデジタル化が一気に進展しています。
詩朗読は主に前橋文学館や街なかのカフェ、ライブハウスで行っていましたが、カフェやライブハウスはコロナ禍で非常に苦境に立たされていて、給付金、協力金といった行政の支援があるものの、コロナ禍が長引けば廃業する可能性もあります。そのような文化の交流場所の損失は街の魅力を低減することになるので、懸念しています。
また、個人的に案じているのは、地域の伝統芸能（祭り、神楽、獅子舞、歌舞伎等）の活動ができず、伝承が途絶えてしまうことで、ここについては行政がしっかりと支援すべきと思います。
それ以外の表現活動については、いわゆる仕事として表現活動に従事している方は、給付金等行政支援の対象になるので、案じていません（コロナ禍の影響を受ける業種のひとつという認識）。また、別に仕事をもちつつ表現活動をしている方々（こちらが大半）は、自助努力で乗り越えるべきと思っています。これまでも表現活動は行政の支援のないところで行われるのが大半でしたし、今は表現活動に対する本気度を試されているように思います。表現者一人ひとりが、自分の人生や社会生活、表現活動を見直す、よい機会です。コロナ禍が過ぎ去ったあとに、すべての表現ジャンルにおいてどのような表現が生まれるのか、とても楽しみにしています。

（公開 OK）群馬の演劇活動に対して動いて下さりありがとうございます。
コロナが落ち着いてもお客様が前のように戻ってきてくれるかの不安はありますが、地域や幼稚園保育園で上演を楽しみにしてくれている子どもたちやお客様に笑顔になってもらえるような活動を継続していきたいです。